

現場最前線 ～工事現場レポート3～

<焼津市八楠に建つ家> (4人の住まい)

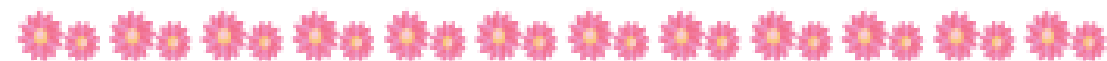
～2階建て 在来軸組工法 延床面積48.28坪 延施工面積56.71坪～

7月4日に現場を見て廻り、あと1週間くらいで完成する感じを受けました。あとは設備工事、内装工事の量の敷込み、外廻りの整地工事で終わりになります。

このお宅は最近にない、畳工事が客間6帖分+リビングの畳コーナー4.5帖分+2階主寝室に4.5帖分の畳があり、廻りのフローリングにうまく溶け込んで、粋な良い感じを出しています。

この家は、収納関係をしっかりと造り付けにしました。リビングTVボード、キッチン納戸、洗面脱衣収納、玄関納戸、2階には1坪の納戸、主寝室のウォークインクローゼットには造り付けの収納棚を取り付けまして、家具と違って地震の時にも倒れることなく安心できると思います。

この家づくりのきっかけは、去年の9月の猛暑の中の見学会で、外断熱の涼しさにビックリされて関心を持っていただいたのがきっかけでした。ご夫婦とお子様2人の家で、坪数が48.26坪ありますので、ゆとりを感じる住まいになっております。見学会を7月16・17・18日に開催致します。



なるほど辞典 ～土用の丑の日～

日本では「土用の丑の日」に暑い夏を乗り切る体力をつけるため、ウナギを食べる習慣があります。「土用の丑の日」の土用は、立春・立夏・立秋・立冬の前の18日間をいいます。つまり、本来は季節の変わり目ごとの丑の日を指していました。現在では夏の土用の丑の日を言うことが多くなっています。では、どうしてこの日にウナギを食べるようになったのでしょうか？

有名なものでは、江戸時代に活躍した発明家で蘭学者、医師、作家でもあった平賀源内が提唱したという説があります。

ウナギ屋さんから、夏になるとウナギが売れないという相談を受けた源内が、「丑の日に“う”の字のつくものを食べると夏負けしない」という言い伝えからヒントを得て、「本日丑の日」と書いて店先に貼ることを勧めたというもの。おかげでそのウナギやさんが大繁盛したことから、他のウナギ屋さんも真似るようになり、「土用の丑の日」にウナギを食べる習慣が定着したそうです。実際にウナギは夏バテや食欲減退防止に効果があります。

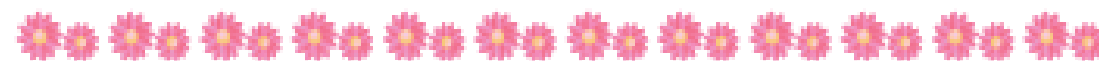
この時期には衣類や書籍を干す習慣がありました。梅雨が明けたら、タンスの奥にしまっていたものを干すのもいいですね。

【“う”のつく食べ物】

*ウナギの蒲焼・・・ウナギにはビタミンA・Bが豊富に含まれており、夏バテや食欲減退に効果が期待できます。

夏の時期にウナギを食べるのは理にかなった習慣だと言えます。

*梅干し・・・夏バテ防止にはウナギ以外にも「土用たまご」や「土用しじみ」などの食養生の習慣がありました。「梅干し」など“う”のつくものを食べると夏バテ防止になるという言い伝えもあります。



(株)片山建設

〒426-0041 静岡県藤枝市高柳3丁目29-15

代表取締役 片山茂夫

TEL: 054-635-7022

FAX: 054-636-2674

E-mail: info@kata-ken.co.jp

HOME PAGE: <http://www.kata-ken.co.jp>